

## 学位論文審査の要旨

学位申請者	李 智賢 【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】 (平成26年9月単位修得退学)	要 旨
論文題目	「疎外された者」と「隣人愛」 -1937年～1948年の作品にみる太宰治-	<p>この論文は、聖書のなかに記されている「隣人愛」を表わしている「汝己を愛するが如く隣人を愛せよ」という言葉を中心にして、第二次大戦時から戦後にかけて、日本におけるキリスト教的な表現の一つの例として、太宰治の作品を手がかりにして、そこでの「隣人愛」について、「疎外された者」あるいは被疎外者という概念を設定することで、聖書のテキストの概念と作品中の表現との差異を検証し、作品中の疎外された人物について考察したものである。分析の対象は、太宰が聖書に接し、「隣人」という言葉が出現する時期である、1937年から1948年までの作品である。これらの作品の中で、疎外されている者は、社会や家庭や世の中の人々から疎外されている人物であり、それらを「隣人愛」の視点から考察することで、そこに人間の本質的な部分である「愛」への指向性があることを見だし、そうした愛のかたちが、聖書のテキストからはやや異なるものの、被疎外者へ救いの手を差しのばそうとした作者自身の内面の問題への手がかりとなることを示した。『家庭の幸福』に記された家庭は、太宰の語る家庭のエゴイズムの描写であり、そこに疎外されて不幸を感じているかもしれない女性の存在に気づかない主人公がいること、また『雪の夜の話』における、灯台守の家庭と難破した水夫の関係も同様であり、幸福な家庭がある一方で、そこから疎外された水夫がいて、そうした被疎外者が作者自身であると捉える。本論では、そこに被疎外者たちに対する親和感を見だし、太宰という作者が、キリスト教的な神の前での「義」である「隣人愛」を実践し、格闘した、と捉えている。</p> <p>申請者は課程修了での論文を提出したが、その際に形式面での修正を求められていたため、いったん単位修得退学して、再度論文博士として論文を提出した。審査委員会は前回提出の論文と比較して、テキストの照合や先行研究の提示、ならびに聖書の使用版などすべてにわたって、修正と改善があり、全体として、内容および形式の両面において、博士論文の水準に達していることを判断したので、公開發表を3月3日に行なった。なお、太宰のテキストや先行研究等は、外部審査委員の菅原克也東京大学教授が専門の観点から精査した。</p> <p>公開發表は学外からの出席者にも恵まれ、質疑に対して申請者は論理的で適切な応答をして、終始豊かな議論の場になった。</p> <p>以上から、本審査委員会は申請者の論文が日本学における学位論文の水準にあり、学位、博士(学術)、Ph.D. in Japanology に相応しいと判断した。</p>
審査委員	(主査) 教授 永原 恵三	
	教授 棚橋 訓	
	教授 高島 元洋	
	教授 加賀美 常美代	
	東京大学大学院総合文化研究科 教授 菅原 克也	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ ㊦ )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>㊦. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

